

目的 被服構成学和裁実習の指導面に効果をあげるには、理論の確立、展開技術、手技手法並びに副作業の改革について考える必要がある。そこで改革の糸口として一連の工程をメモモーション測定装置により動作分析し検討した。

方法 以下に示す①～⑤の方法をメモモーションカメラにより0.6m.mでシャッターで撮影した。

- ① 一般的従来の方法
- ② ①の技法を一部改革したもの
- ③ ②の方法に不織布芯地を使ったもの
- ④ ③の方法をミシン縫いとしたもの
- ⑤ ④の方法に不織布接着芯地を使ったもの

結果 最も効果がみられたのは⑤の方法であった。ただし数多い学生への指導にあたっては素材によって縫製方法や芯地等を至適なものとしなければならぬと思う。